

本図書館における本の探索

君塚 三智子

本学図書館と東横短大図書館での資料探索の一助となるように資料配列構成を背ラベルの中心に説明した。また、インターネット等で資料を検索する際の言葉の選択についてキーワード検索を例に考えた。

キーワード：資料の配列・編成，日本十進分類法，情報検索

武蔵工業大学環境情報学部図書館も4月で開館から6年目を迎えるが、これまで図書委員会を中心に学生モニター・職員が一体となり、その発展に努めてきた。特に一昨年は学部全学生、昨年は全教職員への図書館の利用に関するアンケート調査が行われ、その結果得られた様々な意見や要望に対する改善もかなりの速度で進められている。

図書、雑誌の数も着実に増加（図書約4万5千冊、雑誌430種、視聴覚資料3000種 2002年3月現在）し、貸出期間や冊数も増加するなど図書館の蔵書、サービスともに充実してきている。またCD-ROMチェンジャーが増設され、カウンターでの手続きなしに自由に利用できるようになった。設備面では、集密書庫、地下書庫の増設、雑誌架の増設で収容冊数が13万5千冊となった。その他キャレルデスクや上下移動式椅子が設置され、コピー機、貸出・返却機を2台に増設した。また新聞・雑誌コーナーをラウンジ形式とし、事務室と閲覧室を仕切り、閲覧室の静粛を保つようにした。

本大学の資料は学部を問わずOPAC(Online Public Access Catalog)端末で検索することができ、所属、貸出状況も同時に表示され、両図書館の資料が利用できる。4月からはより検索し易いシステムへの移行も行われ、図書に貼付されているISBN(International

Standard Book Number)からの検索等が可能となった。また東横短大の図書館資料も、カウンターへの申し込みをすれば検索できるようになっている。

コンピュータで資料を探し、借出すことは、忙しい現代人にはとても便利である。しかし、探している資料を実際手にしたら、見当はずれだったということも起こり得る。時間に余裕があるときには、直接工学部や、東横短大の図書館に出かけ、書庫の中を探しまわって直接手にとって見るのもよいのではとおもわれる。いずれの図書館でも図書の配列は日本十進分類法によっており、入り口付近に配列案内が出ている。環境情報学部の図書館でも案内版を置いている。書架近くにも案内があり、それに沿って探していけばわかるようになっている。

ただし注意が必要なのは、それぞれの図書館で、背ラベルに採用している日本十進分類法の版は違っており、版が違くと配架場所もかなり違ってくるということである(表1)。表2は背ラベルの2段目の欄が工学部と環境情報学部の図書館で異なる例を示している。

また、工学部の図書館にはコンピュータに入力されていない個人文庫(貴重図書も含まれている)等もある。この個人文庫は建築関係が多く、閉架書庫に配架されている。これらを探す場合は、冊子目録かカード目録が使用されている。

表1 各図書館背ラベル

環境情報学部図書館	背ラベル1段目	日本十進分類法(第9版)
	背ラベル2段目	日本著者記号表
	背ラベル3段目	巻号表示
工学部図書館	背ラベル1段目	日本十進分類表(第7版)+独自の分類表
	背ラベル2段目	受入番号
	背ラベル3段目	巻号表示
東横短大図書館	背ラベル1段目	和書 日本十進分類表(第8版) 洋書 DDC20版を日本十進分類法に準用
	背ラベル2段目	著者の頭文字
	背ラベル3段目	巻号表示

表2 分類の相違点

コンピュータ関連	
工学部図書館	M (独自の番号で400と500の間), <u>549</u>
環境情報学部図書館	<u>007, 548</u>
環境関連	
工学部図書館	<u>519.5</u>
環境情報学部図書館	<u>519</u>
都市計画	
工学部図書館	<u>519.8</u>
環境情報学部図書館	<u>519.8</u>

以上のような図書館の歴史、事情による違いがあることさえ理解されれば、あとは便利に利用できるはずである。

次に武蔵工業大学環境情報学部図書館や東横短大図書館に資料がない場合は、他の図書館やそれぞれ専門機関作成のデータベースで検索することとなる。検索媒体はCD-ROM, DVD-ROM, インターネットといろいろある。(各データベースの種類や検索方法は図書館ホームページ・図書館利用案内参照)

本図書館でも、国立情報学研究所のILL (Inter Library Loan) への参加をはじめ、神奈川県内大学図書館相互協力協議会等と交流を図ってきた。近年地域コンソーシアムもかなり普及してきている。また、インターネットで、国内はもとより国外の図書館資料も検索可能である(無料・有料はあるが)。以上のことを考えれば、以前の図書館のように数十万冊単位の蔵書の確保する必要はなくなってきているのかもしれない。

仮名かでもヒット件数はかわってくる。それを上記NACSIS-WEBCATで検索してみると、表3に示すような結果となる。したがって、なるべく希望に沿う資料を探すためへの適切な語句の選択が必要となってくる。洋図書の場合よく標題紙裏(英語以外は奥付けの場合もある)にカード型に囲まれ著者や書名がでており、一番下の方に2, 3の単語(件名)が出ている。この語が、その本のいわゆるキーワードであるが、雑誌の論文の場合は始めか最後にキーワードとして抽出されているものが多くなっている。これらの語を参考に検索していくとヒット率がよくなってくる。

2001年1年間で日本国内だけの新刊書発行件数は65,065冊、雑誌の発行数は4,355件もある。論文の場合はテーマにもよるが、1テーマに対して、半月で数十件の論文がだされている(たとえば科学技術振興事業団のJOIS-SDI等の場合)。この状態の中から資料を探すことは困難であるが、本環境情報学部図書館でも

表3 ワードでの相違件数

	タイトル ワード (件)	フリーワード(件)
環境	13,180	14,929
日本 環境	398	1,743
かんきょう(カンキョウ)	13,398	15,174
かんきょう にほん	412	1,765

(2002年2月23日検索)

インターネットで資料を検索するとき、同じ意味でも選択した単語によってヒット件数が変わる。たとえば、NACSIS WEBCAT(国立情報学研究所総合目録データベース WWW 検索サービス)のフリーワード検索で“旅”と入力すると7,822件ヒットし、“旅行”と入力すると2,746件ヒット(2002年3月12日検索)する。旅も旅行も意味的にはあまり変わらないと思われるが、これだけヒット件数が違って来る。また、1語入力し、高い件数がヒットすれば2語・3語と絞り込んでいくことになるが、絞りこみの選択も難しくなる。漢字が

様々な手段を通じて、できる限り利用者の要望に応えられるように努めたい。

1998年より学生に対するライブラリーツアーを行っており、そこでは以上に述べた内容の説明が中心となっている。今後も継続していきたい。また、3年生、4年生のゼミ単位のライブラリーツアーは希望があれば1年中行っており、研究や論文執筆への手助けになるように、より充実したものにしていきたい。